

ラーメンから歴史まで 杉並を多角的に学べる「すぎなみ学倶楽部」



情報収集・
資料活用に

杉並区内の歴史から寺社、まつり、イベント、区民ライターが選んだ飲食店の魅力などをジャンルごとによりやすく紹介しています。掲載している写真や記事の貸し出しについては当サイト内の「本サイトについて」をご覧ください。

調べごと・
見学先のヒントに

「ゆかりの人々」コーナーでは、杉並区にゆかりのある著名人や地域活動者などを紹介しています。また、「産業・商業」コーナーでは、取材した企業・店舗を紹介し、施設の中には見学を受け付けているところもあります。



まち別に
情報検索が可能

「高円寺」の「ラーメン店」、「JR 中央線」の「お花見ポイント」、「高井戸」の「ゆかりの人々」など、区内のさまざまな情報をエリアとジャンルごとに「まち別検索」サイトで検索できます。

すぎなみ学倶楽部 ダイジェストブック2019

平成31年3月発行

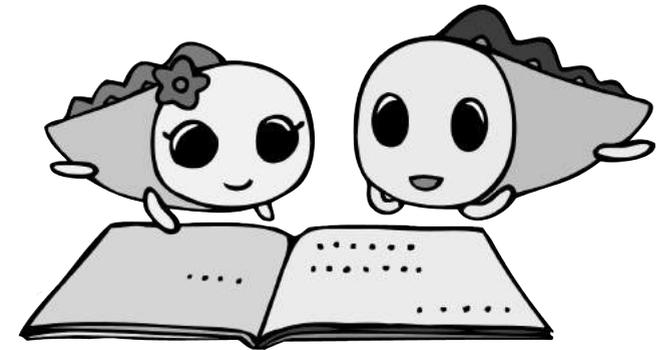
発行 杉並区産業振興センター 観光係
問い合わせ 〒167-0043 上荻1丁目2番1号 インテグラルタワー2階
電話 03-5347-9184
編集・レイアウト 特定非営利活動法人 チューニング・フォー・ザ・フューチャー
取材・執筆・撮影 杉並区民ライター

登録印刷物番号
30-121

杉並区公式情報サイト

すぎなみ学倶楽部 ダイジェストブック

2019



© SUGINAMI CITY

杉並区公式情報サイト「すぎなみ学倶楽部」は区民ライターが杉並のさまざまな魅力を発掘し、発信しているウェブサイトです。本冊子では、ウェブサイトに掲載している記事の一部を紹介しています。

www.suginamigaku.org

写真で振り返る「杉並の昔と今」

大正から昭和 20 年頃までの杉並の写真と、2018（平成 30）年の同じ場所を写真で比較してみよう。



1953 (昭和28)年の出版物
杉並第一小学校



2018 (平成30)年
杉並第一小学校

4つの公立小学校

1875（明治8）年、杉並に最初の公立小学校が開校した。現在の杉並第一小学校、桃井第一小学校、高井戸小学校である。左の写真は、杉並第一小学校の旧校舎。



1944 (昭和19)年
荻窪駅東側大踏切 (写真提供: 広報課)



2018 (平成30)年
荻窪駅東側

最初の駅は荻窪

現在の JR 中央線は 1889（明治22）年、私鉄「甲武鉄道」として誕生。2年後に、杉並区域で最初の「荻窪駅」ができた。踏切は、現在では無くなり、地下通路が作られた。



1917 (大正6)年頃
吉田園スケート場



2018 (平成30)年
玉川上水 小菊橋

スケート場があった!?

1917（大正6）年、下高井戸に「吉田園」というスケート場が開園した。創業者の吉田氏が、園までの道中にある玉川上水を渡るために架けた小菊橋だけが、現在、復元されて残っている。



1939 (昭和14)年
杉並区役所旧庁舎 (写真提供: 広報課)



2018 (平成30)年
杉並区役所本庁舎

杉並区の誕生

1932（昭和7）年10月1日、杉並町、和田堀町、井荻町、高井戸町が合併し、人口約14万人の杉並区が誕生した。2018年（平成30）年、人口は約57万人となった。

【区民投稿】都電杉並線の思い出



(写真提供: 杉並区立郷土博物館)

大正末期から昭和30年代にかけて、杉並には路面電車が走っていた。路線の名称は都電14系統。通称「都電杉並線」と呼ばれ、荻窪と新宿をつなぐ身近な移動手段として利用されていた。「すぎなみ学倶楽部」では都電杉並線の記憶や思い出を記録するため、区民から資料や手記の投稿を募集。当時を知る方々から、多数の情報提供があった。



藤崎博司さん

「自宅から天沼停留所まで、30秒くらいで行ける距離でした。停留所は道路の真ん中にあり、路面より一段高くなっていました。自分が小さかったからでしょうか。停留所はずいぶん高く感じられました。」

戸門恵美さん

「母、弟と、成宗停留所からガタン…ゴトン…と新宿まで行きました。また、6歳頃、母に連れられ、新宿で乗り換えて銀座へ歌舞伎見物に行きました。都電のおかげで、幼い私が都心へ旅をすることができました。」

久保田明さん

「1956 (昭和31)年5月、大関・若ノ花の優勝パレードを見に鍋屋横丁まで行った。停留所で待っていると、若ノ花に乗せたオープンカーが来た。通りすぎるときに叩いた若ノ花の肩が、硬かったことを覚えている。」

伊藤昭久さん

「都電は何と言っても運賃の安さが魅力でした。1953 (昭和28)年頃、「荻窪—新宿駅」区間の運賃は、国鉄 (中央線) 20円、都バス15円に対し、都電は10円でした。」

1953 (昭和28)年当時、使用した「荻窪—新宿駅」区間の都電定期券



アンネのバラ 咲かせ続ける平和の願い

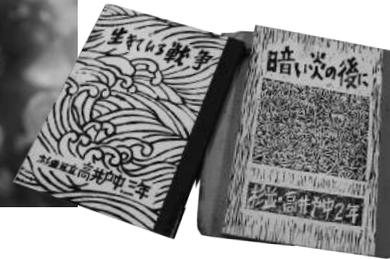
平和のシンボルとして、高井戸中学校で大切に育てられているバラの歴史。



アンネのバラ。毎年春と秋に、高井戸中学校で一般公開されている



生徒たちが編集した手作り文集『暗い炎の後に』と『生きている戦争』



アンネのバラとは

高井戸中学校の校庭に、第二次世界大戦時にナチスの強制収容所で15歳で命を落としたユダヤ人の少女、アンネ・フランクゆかりのバラがある。「アンネのバラ」の愛称で知られるこのバラは、国語の授業で『アンネの日記』を読み、彼女の生涯を学んだ生徒たちの願いに答えて、1976（昭和51）年にアンネの父・オットー氏から寄贈されたもの。以来、平和を願う高井戸中学校のシンボルとなっている。

アンネのバラが高井戸中学校に来るまで

1970年代、杉並区で使われていた中学2年の国語教科書には『アンネの日記』が掲載されていた。1973（昭和48）年、高井戸中学校へ転任した小林桂三郎先生は、生徒たちに「なぜ戦争が起きたのか」を考えさせ、その上でアンネへ寄せた手紙を書くよう呼びかけた。戦争と平和について学んだ生徒たちは、その成果をまとめるため、「アンネ・フランクに寄せる手紙編集委員会」を発足させた。

1975（昭和50）年3月4日、42名の編集委員の手で130部の手作り文集『暗い炎の後に』が完成。翌日の国語の授業で全員が読みあい、数日後、オランダの「アンネ・フランク財団」とオットー氏に文集を送った。

小林先生からのメッセージ

「アンネのバラは平和のバラであると同時に、人々の善意のバラです。取り組みを支えたのは、『アンネと同世代の子供たちの平和への願いを叶えてあげたい』という、たくさんの人々の善意の協力でした。バラは植えただけでは枯れてしまう。同じように、平和は人々の努力で守っていかねば途絶えてしまう。決して向こうから歩いて来ないのです。」

近所を散歩中、偶然このバラの存在を知り、取材をスタート。約半年で20名以上の関係者からお話を伺い、それぞれがバラに込めた平和への願いに胸を熱くしながら執筆しました。（区民ライター：内藤じゅん）

杉並区の交流自治体

杉並区は国内外13の自治体と協定等を通じ、子供たちの交流や物産展などを通して友好の輪を広げている。また、防災に関わる協定を結んでいる都市もあり、災害が発生した場合、両自治体お互いに協力し、応急・復旧対策を行うこととなっている。



「東吾妻町の取材時のこと」

紅葉にはちょっと早かったですが、同行したライターにモデルになってもらったりして紅葉狩りっぽい写真が撮れました。目的意識を持って撮ると写真術のレベルアップになります。（区民カメラマン：syaeidou）

海外の交流自治体

オーストラリア連邦
ニューサウスウェールズ州ウィロビー市
1990年「友好都市協定」

大韓民国ソウル特別区瑞草区
1991年「友好都市協定」

台湾台北市
2013「青少年交流推進宣言」

国内の交流自治体

北海道名寄市
1989年・2006年「交流自治体協定」
1995年・2006年「防災相互援助協定」

新潟県小千谷市
2004年「災害時相互援助協定」

群馬県東吾妻町
1989年・2006年「友好自治体協定」
1995年・2006年「防災相互援助協定」

山梨県忍野村
2012年「災害時相互援助協定」

静岡県南伊豆町
2012年「災害時相互援助協定」



交流自治体には自然豊かで四季折々の風景が楽しめるところが多い。写真は群馬県東吾妻町、国指定名勝「吾妻峡」の紅葉



福島県北塩原村
2004年「まるごと保養地協定」
2012年「災害時相互援助協定」

福島県南相馬市
2005年・2007年「災害時相互援助協定」

東京都武蔵野市
2011年「災害時相互協力協定」

東京都青梅市
2009年「交流に関する協定」
2011年「災害時相互援助協定」

東京都小笠原村
2013年「子ども自然体験交流事業推進宣言」

読書のスプーマ杉並ゆかりの本

区立学校が制作に関わった本や、杉並が舞台として登場する小説、エッセイなどを紹介。



ことだま百選



編：東京都杉並区立天沼中学校（講談社）
日本の文学作品を中心に、『いろは歌』に始まる100タイトルの名文・名句が、暗唱用に厳選されている。古文・漢文・欧文には現代語訳付き。

おうちで食べたい給食ごはん



監修：杉並区教育委員会（イーストプレス）
杉並区の標準献立のうち、カレーライスをはじめ、人気のおかずやデザートなど78レシピを掲載。子供が苦手な野菜や魚を食べやすくする工夫もみられる。

あの家に暮らす四人の女



著：三浦しをん（中央公論新社）
直木賞作家がユーモアあふれる語り口調で綴る、善福寺川緑地近くの古い洋館に暮らす4人の女性の物語。2019年にテレビドラマ化予定。

高円寺純情商店街



著：ねじめ正一（新潮社）
主人公の正一は、高円寺北口商店街にある乾物店の息子。彼と家族や商店街の人々との関わりを描いた、昭和30年代の物語。第101回直木賞受賞作品。

ぼくはオンライン古本屋のおやじさん



著：北尾トロ（風塵社）
フリーライターの北尾さんが「杉並北尾堂」を開業し、奮闘した日々をまとめたエッセイ。オンライン古本屋のノウハウが、詳しく解説されている。

本・子ども・絵本



著：中川李枝子（大和書房）
子供と子供の本について語ったエッセイ集。杉並区天沼で少女時代を過ごした中川さんの思い出から、当時の杉並の子供たちの様子が彷彿させられる。

散歩もの



作：久住昌之 画：谷口ジロー（扶桑社）
「散歩の天才」を自称する主人公が、緑道や商店街など、ありふれた風景を散歩するコミック。第3話は、井の頭公園駅から高井戸駅までが舞台。

阿佐ヶ谷文士村



著：村上護（春陽堂書店）
明治中期から昭和40年代まで、阿佐ヶ谷界隈に住んだ文士「阿佐ヶ谷会」の交遊録。井伏鱒二や太宰治などの暮らしぶりが、時代背景とともに綴られている。



INTERVIEW

言語学者
金田一秀穂さん インタビュー

●プロフィール

1953年杉並区生まれ。杏林大学外国語学部教授、専門は言語学。上智大学文学部心理学科卒業。東京外国語大学大学院博士課程修了（日本語学専攻）。大連外国語学院、コロンビア大学などでの日本語教師を経て現職。著書多数、テレビ出演も多い。



学者一家の三代目は、祖父の代から杉並人

金田一秀穂（きんだいちひでほ）さんは、杏林大学外国語学部教授。祖父の金田一京助さん、父の金田一春彦さんも、ともに著名な学者である。生まれながらにして、学者の三代目という看板を背負っていた金田一さんだが、父の春彦さんに勉強しなさいと言われたことはなかったとのこと。ただ、その家系ゆえに思うことはあったようだ。「自分に対し、祖父、父と同じように偉いことをするだろうと期待している人や、三代目という看板だけを見て、ひいき目で接する人がいました。“本当の自分を知ってほしいな”と思っていました。でも、プレッシャーとは違いますね。親切にしてもらったことも多く、恵まれていました。今もいろいろな場に呼ばれるのは、祖父や父の存在あればこそだと思います。」

そんな金田一さんに、韓国を旅行したことで意識に変化が訪れた。「私が韓国を訪ねたのは、1980（昭和55）年5月に起きた光州事件の数か月前。その時、日本語を話す親切なおじいさんに会いました。日本語は彼にとって抵抗のある言葉のはずですが、その言葉で話し掛けてきたことで私を受け入れてくれたのだと思いました。韓国で日本語を意識したことは、私のターニングポイントだったのかもしれない。」

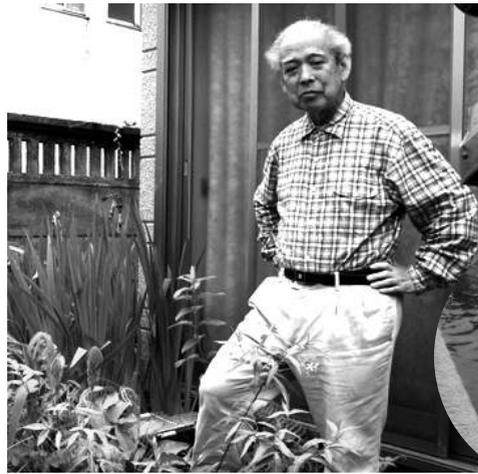


西荻窪にある和菓子屋「高橋菓子店」の店主と。子供の頃の思い出の残る店（写真提供：金田一秀穂さん）

日本語学者への道は、外国暮らしへの憧れから

金田一さんは、区立西宮中学校、都立西高等学校と、中高を杉並で学び、上智大学文学部心理学科に進学する。学者への憧れはあったが、日本語を研究する意思はなかったそう。卒業後は、パチンコで書籍代などを稼ぎつつ、読書三昧の日々を3年間続けた。

気さくで話好きの金田一さんは、インタビューしやすい方だった。お話は興味深いエピソードが満載で、その中から取捨選択して記事にするのに、少々頭を悩ませた取材となった。（区民ライター：村田理恵）



昆虫博士 故 須田 孫七さん インタビュー

●プロフィール

1931年杉並区生まれ。東京大学総合研究博物館協力研究員。学研の「科学」と「学習」の記事も執筆。



須田 要はただトンボを増やすだけではダメ。トンボの飛翔能力は高いので50kmくらい平気で飛んできますよ。だから杉並にトンボ

が住める場所がなくなったところでトンボが困ることはありません。そうではなくもっとトンボの気持ちを考えてすべての生きものを増やさなければ意味はない。環境（水と水草とエサ）があればトンボは戻ってくるのです。実際、（ヤゴ救出大作戦をやった）川に棲む流水性のものは減っていますが田んぼなどに棲む止水性のトンボは数を増やしています。ただ、子供たちが環境問題を考えるきっかけになればそれは「意義」があります。

- ※1 ヤゴ救出大作戦：学校のプールに産卵し繁殖したヤゴを、プール開き前の清掃で流される前に救出する活動
- ※2 ヤンマお誘いセット：水草にとまって産卵するイトトンボやギンヤンマをプールに呼び寄せる、木の枝などを取り付けたイカダ

ヤゴを飼育してみよう

- ①大き目のペットボトルを切り、割り箸を挟む。
- ②汲み置きした水を入れる。
- ③エサはアカムシ、ミミズのほか、ペットショップで購入できる。
- ④羽化は主に夜に行われる。割り箸に登り始めたら注意して観察しよう。



須田 ヤゴ救出大作戦（※1）は40数年前、私が桃井第二小学校でやったのが最初なんです。当時都内には約600の公立小中学校がありました。桃井第二小学校のプールで調べた結果、プールに多数のヤゴが生息し、一校あたりが約1000匹のヤゴがいると試算しました。1000匹×600校となると60万匹のヤゴがいる計算になります。それがプール掃除によって毎年60万匹のヤゴの命が奪われる。この命を救おうとはじめたのがヤゴ救出大作戦の事始めです。

—— ヤゴ救出大作戦はトンボの生態調査に役に立ってるのでしょうか？

須田 いや、調査という意味ではあまり役には立っていません。「ヤンマお誘いセット（※2）」を作ってヤンマを呼び寄せるのでは「ペット」と変わらない。これは自然の状態ではないので「調査」とはいえないけれど、トンボを増やす工夫という点では意味があります。ヤゴを救ってトンボばかり増やしてもヤゴのエサがなければ結局はヤゴ同士で共食いしてしまう。アゲハチョウを増やそうとカラタチの木をいっぱい植えたところで、鳥たちにエサのありかを教えてるようなものです。

—— つまり、人間が良かれと思ってやった事が裏目に出るわけですね。

元ボクシング世界チャンピオン 具志堅用高さん インタビュー

「ボクシングは沖縄本島の興南高校で始めました。それまではテレビでも見たことはなかったし、体も小さく、けんかも弱かった。ただ動きは良かったんじゃないかな。高校で友達に誘われてボクシング部に入り、3ヶ月後の新人戦でいきなり決勝まで進みました。ボクシングの技術はなかったけど、動きと粘り、それと我慢強さがあった。島の生活で鍛えられたんですよ。高二で全国大会に進出し、1973（昭和48）年、高三のインターハイ・モスキート級で優勝しました。」



●プロフィール

1955年沖縄県石垣市生まれ。1976年10月WBA世界ジュニアフライ級を奪取。引退後は、1995年に「白井・具志堅スポーツジム」を設立し、現在は移転先の西永福で後進育成に励み、解説者、タレントとしても活躍している。



義足のアスリート 大西瞳さん インタビュー

私たちはよく「ちょっと風邪ひいちゃって…」と言う。しかし大西さんの場合、軽い話では済まなかった。心臓の筋肉が炎症を起こす心筋炎になってしまったのだ。海外添乗員を目指し、バス旅行の添乗員として仕事を始めた矢先のことだった。一ヶ月間意識不明に陥った結果、



心臓にはペースメーカーが埋め込まれ、血流が滞り壊死してしまった右足は大腿部から切断。現実を受け入れられず、悲嘆にくれたが、家族や友人たちは「よくぞ命を失わずにいてくれた」と生還を喜び励ましてくれた。



●プロフィール

1976年杉並区生まれ。2000年に心筋炎により右大腿部を切断。その後、陸上競技を始める。都内の区役所で勤務しながら、切断者スポーツクラブ『ヘルスエンジェルス』のメンバーとしても活動するなど多方面で活躍。

杉並にもプロ野球団があった！ 東京セネターズ物語

1936（昭和11）年、日本プロ野球（当時日本職業野球連盟）創成期に、上井草駅から南西約200mに位置するプロ野球専用の上井草球場（現杉並区上井草スポーツセンター）があり、その球場を本拠地として、旧西武鉄道が経営に参画した東京セネターズというプロ野球団が存在した。



杉並区の産業・商業

区内に拠点を置く、さまざまなジャンルの企業、歴史ある老舗などを取材したコーナーから、世界を魅了する技術で活躍する2社を紹介する。

根本特殊化学株式会社



画期的な蓄光性夜光顔料「N夜光（ルミノーバ）」

夜光塗料の歴史を変えた「N夜光（ルミノーバ）」

創業 50 周年にあたる 1991（平成 3）年、根本は大きな危機に見舞われる。大口顧客の精工舎が「環境保護のために、5 年以内に放射性夜光塗料を全廃する」という新聞発表を行ったのである。しかし根本は卓越した技術力と研究開発力でこの危機を乗り越える。1993（平成 5）年、放射性物質を含まず、輝度が従来品の 10 倍、発光時間が従来品の 10 倍という画期的な蓄光性夜光顔料を開発したのである。この蓄光性夜光顔料の国内の商品名は「N夜光」、海外向け商品名は「ルミノーバ（LumiNova）」という。

この飛躍的な機能および性能向上は、時計事業等の従来事業の競争力を強化するとともに、夜光塗料の活用範囲を大幅に広げることになる。例えば、1996（平成 8）年、ドイツのルフトハンザ社はフロアパス（航空機客室の通路）に「ルミノーバ」を採用する。これで何らかの事故で機内が暗くなっても長時間の避難経路確保が可能になった。国内でも避難経路を示す標識など、セイフティ分野への応用が拡大されている。

※「N夜光」「ルミノーバ」は根本特殊化学株式会社の登録商標



竹清堂

時代とともに変わり続ける竹工芸品

1907（明治 40）年創業の竹工芸店「竹清堂」。3 代目店主・田中旭祥（きょくしょう）さんは大分県立別府高等技術訓練校に入学し、別府竹細工を学んだ。竹を細かく割った竹ひごを編み、さまざまな形に作り上げていくのが特徴で、編み方は 200 以上あるという。

技術を磨いて帰ってきた旭祥さんは、オリジナルの伝統工芸作品を作り始めた。1979（昭和 54）年、「第 19 回 伝統工芸新作展」に初出品し入選。1998（平成 10）年より、ニューヨークアートフェアに出品したり、サンフランシスコ・サンタフェで個展をするなど、海外でも活動している。「アートフェアに参加して 20 年ぐらいたちますが、アメリカでは竹工芸品をアートとして見てくれるんです、実用的なものではなく美術品として。そこがうれしいですね。」



旭祥さんの作品、千筋組木瓜（せんすじくみもっこう）花籠「もののふⅡ」（写真提供：竹清堂）



杉並名品復刻プロジェクト

区民ライターが、杉並に古くから残るレシピや、閉店した区内の店の商品を再現するコーナーから、3 つのメニューをピックアップ。

大正から昭和にかけて、高井戸で活動した農の思想家・江渡狄嶺（えどてきれい）さん。その妻・ミキさんが残した「料理帳」にあった、ハイカラな洋食レシピの 1 つ。プリンの中に砕いたマカロニが入った、その名の通り「サプライズ（驚かせる）ブデン」。



【試食した感想】区内フランス料理店のシェフが再現。バターを贅沢に使用した濃厚なキャラメルソースが、プリンのシンプルな味とマッチし、まるでケーキとプリンの中のような味わいだった。砕いたマカロニが食感のアクセントになっていた。

作家・太宰治は、杉並に住んでいたとき荻窪の「小澤パン店」をひいきにしていた。太宰の親友、伊馬春部作の芝居の脚本に、「太宰（さっそくステッキパンをかじって）うむ…うまい…まったくひさしぶりの味覚だ…」というシーンが登場する。とりわけステッキパンが好みだったようだ。



【試食した感想】「小澤パン店」があった場所の近くで営業中のベーカリー「吟遊詩人」に、昭和初期のパンのレシピを参考に再現してもらった。パリッとした皮に、しっとりした中身。噛めば噛むほど小麦の味を感じる素朴なパンに仕上がった。

大正時代、井荻村の名村長・内田秀五郎氏が、干し大根よりも粗利益が見込める「たくあん漬」を作る農業指導を実施。村の繁栄につながった。干し大根を塩麹（こうじ）に漬けて作ったものを「ひねたくあん」と呼んでいたそうだ。



【試食した感想】『杉並歴史探訪』の記述を参考に、実際に練馬大根を干すところからスタート。作業開始から約 1 カ月後に糠床から出して試食。味はかなり塩辛く、一切れをおかずにご飯 1 杯食べられそうなほどだった。歯ごたえは天下一品だった。

明治時代の
レシピ
サプライズ
ブデン



太宰治が
愛した荻窪の
ステッキパン



井荻村村長
内田秀五郎の
ひねたくあん



アニメと漫画

日本が世界に誇るポップカルチャー、アニメーションと漫画。数々のヒット作を生み出したアニメスタジオと、杉並ゆかりのレジェンド漫画家を紹介する。

アニメのまち杉並 アニメ黄金期と東京ムービー

1970年代から80年代、日本はアニメ黄金期を迎え、多くの作品が誕生する。阿佐谷にあった東京ムービー（現トムス・エンタテインメント）でも数々の名作が生まれる中で、今やアニメ史に燦然（さんぜん）と輝く名監督や名クリエイターが活躍していた。宮崎駿さんと高畑勲さんが「ルパン三世」の制作に参加していたのもこの頃である。

当時、東京ムービーでは毎週放送されるアニメ作品を10本前後抱えていた。そのため、国内だけでは間に合わず、韓国で作画作業を行っていた。「毎週、ハンドキャリアで300キロ、ダンボール20箱ぐらいセル画を運んでいました。成田空港の通関で止められて、「これは「巨人の星」のセル画なんだ、放送に間



「東京工芸大学杉並アニメーションミュージアム」では、アニメの歴史や工程などが学べる

に合わない」と説明したこともありましたね。」（特別顧問・吉田力雄さん）



漫画「のらくろ」の生みの親 田河水泡さん

「私はのらくろの黒、つまりのらくろというものです。兵隊に入って大いに活躍したいのです。入れてもらえますか」。1931（昭和6）年、『少年倶楽部』新年号で『のらくろ二等卒』として産声をあげた「のらくろ」。

田河水泡（たがわすいほう）、32歳の時であった。

田河は、1899（明治32）年、東京市本所区林町（現・東京都墨田区立川）に生まれた。本名は高見澤伸太郎（たかみざ

わなかたろう）。わずか1歳の時に母が他界、2歳のときに父が再婚したため、伯母夫婦に預けられる。伯父は近隣の大家として豊かな暮らしをしており恵まれた環境であったが、実の親の温もりを感じることなく過ごした幼少期の孤独感は、「のらくろ」を生み出す背景の1つになった。

構ってくれる人のない野良犬が、どんなに辛い境遇でも「なにクソ！」という負けじ魂を失わずに自分の生きる道を切り開いていけば、最後には将校にまでもなれる。そんな、弱い立場の者に対する田河の愛は、当時の子供たちの心を強く揺さぶり、何よりの心の支えになっていた。田河はこう語る。「のらくろの種をまいたのは私だが、立派にずっと育ててくれたのは、読者だよ。『のらくろ一代記』より」

復刻版のらくろシリーズ No4 『のらくろ新品伍長』
昭和38年12月（町田市市民文学館所蔵）



杉並の郷土芸能

神社の祭礼や地域行事などで、笛・鉦（かね）・太鼓・大太鼓を演奏し、盛り立てる囃子（はやし）。今も区内で演じられている囃子から、5つを紹介する。



成宗囃子



成宗須賀神社の氏子が中心となり明治初期に始まったとされる。昭和50年頃に復活し、今は成宗囃子保存会として若い世代の育成に力を入れている。

大宮前囃子



春日神社の氏子区域に継承されてきた。1955（昭和30）年頃に発足した大宮前郷土芸能保存会が伝承。里神楽を演じられる数少ない団体でもある。

井草囃子



1852年、本多余次郎が伝えたとされる。1976（昭和51）年に井草囃子保存会を結成。囃子のほか獅子舞などの伝承と向上に取り組んでいる。

関口囃子



明治期に始まり、旧田端村関口周辺で継承されてきた。現在は友栄會はやし連中として活動。囃子や面踊り、獅子舞まわりなどを行っている。

高井戸囃子



「1890（明治23）年の大日本帝国憲法発布記念行事として、皇居前広場で囃子を演じた」との記録も残る。1974（昭和49）年に高井戸囃子保存会が組織され、囃子や面踊りなどを継承している。

「杉並郷土芸能大会」の取材のこと

この記事の取材では、祭囃子の歴史が学べ、何より地域の子供たちの演技に魅せられました。区民ライターの喜びは、その感動を区民に伝えられることだと思います。（区民ライター：元川正文）

実習記事に次ぐ初めての取材体験でした。流派により特徴がある祭囃子ですが、私には同じように聞こえるばかり。参考資料を頼りに何とか記事にし、正直ほっとしました。（区民ライター：河合裕司）

杉並の産業・商業

●杉並の企業	
杉並児童合唱団	「杉児」の愛称で知られる合唱団(西荻窪)
(株)リード社	『ゴルゴ13』のコミックを出版(高円寺)
日都産業(株)	遊具・健康器具メーカー(西荻窪)
東信水産(株)	荻窪タウンセブンの名店(荻窪)
(株)チャイルド社	保育園経営と保育誌の出版(荻窪)
(株)タマス	卓球用品のトップブランド(南阿佐ヶ谷)
オーデリック(株)	照明器具の専門メーカー(高井戸)
根本特殊化学(株)	夜光塗装加工と販売(高井戸)
サミット(株)	区内に9店舗あるスーパー(西永福)
丸美屋食品工業(株)	「のりたま」でお馴染み(西荻窪)
(株)細田工務店	木造戸建住宅メーカー(阿佐ヶ谷)
(株)カノウブス	国内外で人気のドラマを製造(高井戸)
岩崎通信機(株)	大手通信機器メーカー(久我山)
マグナ通信工業(株)	セキュリティ機器の開発・施工(永福町)
(株)ヴァル研究所	元祖・路線検索ソフトを開発(高円寺)
(株)パナ・ケミカル	発砲スチロールのリサイクル(八幡山)
(株)アイネットホールディングス	ショールームのある菓子問屋(永福町)
ケンコーマヨネーズ(株)	業務用総菜、調理ソースを販売(高井戸)
●老舗企業・老舗商店	
いづみ工芸店	棟方志功も通った工芸品店(荻窪)
カナモノワタナベ	太宰治の小説にも登場(阿佐ヶ谷)
竹清堂	進化する竹工芸の店(桜上水)
ビリヤード山崎	日本最古級のビリヤード場(西荻窪)
前田豊吉商店	創業300年、鍼灸鍼の老舗(荻窪)
石井薬局	ニーズに応え続ける薬局(阿佐ヶ谷)
(株)小泉	明治創業の住宅設備関連企業(荻窪)
万田サイクル	山あり谷ありの自転車屋稼業(荻窪)
岩崎通信機(株)	通信産業のバイオニア(久我山)
三原堂	愛される昔ながらの和菓子店(西荻窪)
酒ノみつや	長年信頼されてきた酒店(阿佐ヶ谷)
丸美屋食品工業(株)	日本の食卓を支え続ける(西荻窪)
杉並の農業	都市農業の様子と伝統野菜の研究
記憶に残したい伝統職	和裁師、扇師など、希少な職人の姿
杉並モノ語り年表	1960～1990年代を支えた企業

●アニメ制作会社	
(株)A-1 Pictures	「青の祇魔師」など(阿佐ヶ谷)
スタジオ地図	「バケモノの子」など(杉並区)
(株)ボンズ	「鋼の錬金術師」など(井草)
(株)ゴンゾ	「ブレイブストーリー」など(南阿佐ヶ谷)
(株)白組杉並スタジオ	「もやしもん」など(下高井戸)
(株)サンライズ	「機動戦士ガンダム」など(上井草)
(株)サテライト	「マクロス」など(南阿佐ヶ谷)

ゆかりの人々

●著名人に聞く 私と杉並	
金田一秀穂	言語学者、テレビでも活躍(阿佐ヶ谷)
勅使川原三郎	国際的ダンサー・振付家(荻窪)
マシュー・チョジック	アメリカ出身のタレント(阿佐ヶ谷)
輪島功一	元ボクシング世界チャンピオン(西荻窪)
増子直純	ロックバンド「怒髪天」を牽引(西荻窪)
有吉玉青	作家。母有吉佐和子との思い出
久住昌之	漫画家・ミュージシャン
具志堅用高	元ボクシング世界チャンピオン(西永福)
水道橋博士	タレント・作家(高円寺)
津田大介	ジャーナリスト。ネット世代の代表(高円寺)
横山健	ミュージシャン・ギタリスト(高井戸)
ねじめ正一	作家・詩人(阿佐ヶ谷・高円寺)
林家木久扇	落語家、「笑点」のレギュラー(西荻窪)
山下洋輔	世界的ジャズピアニスト(阿佐ヶ谷)
●知られざる偉人	
江渡狄嶺	大正時代に活躍した農の哲人(高井戸)
関村ミキ	江渡狄嶺を支えた妻(高井戸)
飯沼金太郎	パイロット、民間航空学校を設立(西荻窪)
手塚忠四郎	芸術の領域に達した左官職人(方南町)
田河水泡	漫画家、『のらくろ』の生みの親(荻窪)
奥村土牛	大正・昭和を代表する日本画家(西永福)
中西悟堂	日本野鳥の会創設者(西荻窪)
小川未明	日本のアンデルセンと呼ばれた童話作家(東高円寺)
山本美香	最後まで戦場を伝えたジャーナリスト(荻窪)
南雲武門	地域情報新聞「杉並町報」を創刊(阿佐ヶ谷・永福町)

自然

野鳥	区内で観察できる野鳥の写真と解説
杉並メダカ	荻窪で発見された絶滅危惧種
トンボ	ヤゴ救出作戦から飼ひ方まで
セミ	羽化観察ポイント(白紙レポート用紙付)
貴重木	区内の樹木紹介(白紙レポート用紙付)
おどろき、ものもき、杉並の木	樹木医が語る樹木の話

食

スイーツ	和菓子・洋菓子店のおすすめ商品を紹介
喫茶店(イトイン含む)	老舗から新鋭の個性派カフェまで
ラーメン	東京を代表する老舗や最新店舗の情報
ベーカリー	個性豊かな店舗とおすすめのパン
レストラン	家族で、カップルで利用したい店舗
ヘルシーメニュー推奨店	杉並区に認証を受けた推奨店
惣菜・飲料・その他	持ち帰り惣菜など、人気のノンジャンル

スポーツ

野球	少年野球からおじさんの早朝野球まで
サッカー	サッカー練習場や杉並の女子サッカーなど
マラソン	効率的な走り方から健康管理法まで
格闘技	区内でできる格闘技教室の紹介
ガーデンゴルフ	杉並発祥のスポーツを愛好家とともに
ボウリング	今は消えたボウリング場の歴史やその裏側
水泳	幼児でも楽しめる水遊び場から呼吸法まで
ラジオ体操	区内のラジオ体操会場とその歴史をひもとく
運動会攻略	子供の競技攻略法と保護者の安全な参加方法
その他のスポーツ情報	ボルダリング、スラックラインなど

特集

お花見ポイント	
公園に行こう	
災害・防災	
杉並の教育	
杉並の専門学校	
杉並の地域活動	
広報すぎなみ掲載コラム集	
開設10周年記念特別対談シリーズ	

道を究める	特定分野のスペシャリスト
芸術家たち	創作・芸術の道で生きる
教育を支える	教育現場や教育支援に関わる
地域をつなぐ	地域活動等で人や物事をつなぐ
まちのアーティスト	若手作家やパフォーマンサー
スポーツに携わる	スポーツや健康問題に取り組む
経営者・起業家	唯一無二を目指す企業家

歴史

杉並の変遷	
記録に残したい歴史	
【証言集】中島飛行機 軌跡と痕跡	
【証言集】アンネのバラ 咲かせ続ける平和の願い	
【証言集】杉並の養蚕と蚕糸試験場	
杉並名品復活プロジェクト	
歴史資料集	
アニメのまちができるまで	
杉並区に残る戦争のつめ跡	
道具に見る昭和の暮らし	
【記録集】杉並にも公民館があった	
【証言集】戦争体験	

文化・雑学

読書のススメ-杉並ゆかりの本	
杉並の寺社	
杉並みやげ	
なみすけグッズ	
杉並のキャラクター	
杉並の景観を彩る建築物	
杉並のイベント	
杉並のさまざまな施設	
杉並のアートスポット	
杉並の古書店	
杉並の芸能	
杉並まちあるき	
杉並区の交流自治体と宿泊施設	
杉並イチバン	